



病院機能評価認定を受けて

副院長 堀内 雅彦

当院は2010年1月15日付けで、財団法人日本医療機能評価機構が審査を行なう病院機能評価の更新認定を受けました。病院機能評価とは、中立的な第三者機関である同機構が、医療施設における医療の質や機能を専門的見地から客観的な視点で評価するものであり、今回はバージョン4.0から新たな視点を取り入れた最新のバージョン6.0への更新認定でしたが、当院に対する審査項目は



- | | |
|---------------------|--------------------|
| ①病院組織の運営と地域における役割 | ④医療提供の組織と運営 |
| ②患者の権利と医療の質および安全の確保 | ⑤医療の質と安全のためのケアプロセス |
| ③療養環境と患者サービス | ⑥病院運営管理の合理性 |

の6つの領域から構成され、数百項目に渡る事項についての評価を受けました。

今回は2回目の受審でしたが、それでも受審準備を始めてから認定を受けるまでの間には、各部署の職員の方々には度々の会議や検証作業、文書作成など、通常の業務に加えて、かなりの仕事量の負荷があったと思います。受審のプロセスは職員間や複数の部署間での連携作業につきますが、さまざまな葛藤があったものの、この過程が職域を超えて同じ目標に向かって結束を高める良い機会でもあったと思います。病院機能評価とは、突き詰めれば現代の医療施設が求められている基本的な姿勢を示しているものであり、少しハードルが高く感じられてもクリアしていかなければならない内容だと考えられます。ただ、今回の認定をいただいた評価項目の中には、正直、当院の現状にはそぐわないのではないかと考えられる項目もあったように思います。

今後は当院の発展に寄与し、当院の特徴を明確にした独自のスタイルを打ち出していくための必要十分条件をさらに模索していかなければならないと思います。

最後に、今回の認定に際し、各部署で鋭意努力をしていただいた職員の皆様方には、心より感謝を申し上げます。

ふ

れ

あ

い

看

護

体

験



看護師副主任
園田 佳枝

今年度も福岡県看護協会主催のふれあい看護体験が実施されました。

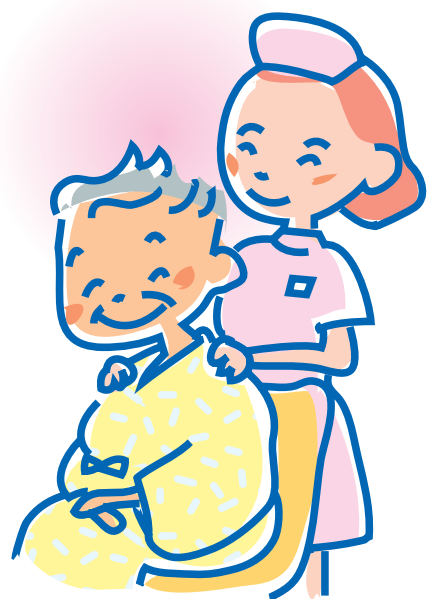
当院でも、ありあけ新世高校より1名の参加者を受け入れさせて頂きました。

将来、看護師になることを夢にみて、どきどきしながらの体験だったと思います。患者さんの足浴や手浴、車椅子での移動の介助などをしてもらいました。高齢の患者さん達は孫を見るようなやさしい笑顔で、嬉しそうに声をかけて下さっていました。

この体験を終えて、「看護師さんの仕事は、テレビドラマで見たイメージとは違って大変だと思いましたけど、患者さんから、励ましの言葉をかけてもらったりして、私が元気をもらいました。看護師になりたいと思いました。」と感想を述べてくれました。ふれあい看護体験に参加し、看護師を目指す気持ちをより強くもってくれた事をととてもうれしく思いました。

一日だけの体験で時間的には短かったですが、一人きりの参加だったので、緊張して大変だったと思います。

今後もふれあい看護体験の受け入れを実施し一人でも多くの人に看護師を目指して頂きたいと願います。



透析料理教室実習



栄養室主任
山下 裕子

10月4日(日)、第3回透析食料理教室を行いました。当院の給食を実際に調理してみることで、減塩・リン・カリウム制限に対する調理法や、各食材・調味料の使用量などを学ぶことが目的でした。透析食の食事療法について軽く復習した後で、実際に作る料理のポイント等を説明し、調理実習を行いました。

メニューは、事前アンケート等でリクエストの多かった「鯖の南蛮漬け」をメインに、旬の生姜を使った炊き込みごはん、白菜のそぼろあんかけ、もやしの中華和え、ヨーグルトムースの5品でした。参加者は11名でした。

実習後、「楽しく実習ができた」「いろんな方のお話を聞けてよかった」「参加

してよかった」「とても勉強になった」「調味料を計量することの大切さを知った」「どの料理も美味しかった」「また参加したい」等の声があり、大好評でした。

参加者のみなさま、本当にありがとうございました。また、第4回を開催出来ればと思っています。



患者さんより

透析料理教室
に参加して

日頃から減塩、薄味などと気をつけていながらも、つい目分量で料理をしている事が多いです。料理教室で1人分の塩などの調味料を正確に量ると「こんなに少ない量!」と改めて考えさせられます。塩分、たんぱく質、リン、カリウム…と制限の多い食事は実に味気のないものですが、透析患者にとってこの食事を続ける事が必要です。料理教室に参加し、普段の料理に気をつける様に心掛けています。

今まで数力所の病院で透析の為に食事をした事がありますが、当病院の食事は行事食など工夫をした献立や味付けなど、おいしいと感じています。たとえ薄味でも、やはりおいしく食べたいものです。

栄養士や調理師の方々には、病院の調理の合間を縫って料理教室を開いていただきありがとうございました。今後もおいしい食事を期待しています。

新しい検査機器を導入しました

生化学自動分析装置

自動グリコヘモグロビン分析計



検査室主任
平野佳奈子

検査室では、新たに2009年11月より自動分析装置(東芝メディカルシステムズ社製、Accute)、自動グリコヘモグロビン分析計(東ソ社製、HCL-723G8)の二機種を導入しました。

自動分析装置の導入により、院内で検査可能になった項目も35項目と増え、検査処理速度も1時間に400テストと上がり、一度に出来る処理検体量が一般検体40本、緊急検体10本と増えました。また、従来の検査方法とは違い、測定方法がウェット法となった為に、データの安定性が以前に比べて良くなりました。

自動グリコヘモグロビン分析計の導入により、今まで院内で出来なかった糖尿病の診断項目の一つでもあるHbA1cの検査がファーストレポート印刷

まで2分と迅速に出来るようになりました。この為、診察日以前に来院して検査をしていたHbA1cが診療直前の検査が可能となりました。

2つの機械の導入により、患者さんの診察に、より一層役立つ診療前検査が可能となりました。

自動分析装置
(東芝メディカルシステムズ社製、Accute)



自動グリコヘモグロビン分析計
(東ソ社製、HCL-723G8)



ここで一つ!!
検査一口メモ!

ヘモグロビン
"糖尿病" "HbA1c"
とは何でしょうか?



糖尿病とは、インスリン作用の不足により生じる慢性の高血糖を主徴とする代謝疾患群のことです。慢性的に続く高血糖や代謝異常によって、慢性合併症を引き起こします。すなわち、視力障害ときには失明、腎不全、疼痛、下肢の壊疽など重大な結果に至ることがあります。また、糖尿病は全身の動脈硬化症を促進します。これらは最終的には心筋梗塞、脳梗塞、あるいは下肢の閉塞性動脈硬化症などの重大な合併症を引き起こす可能性があります。



糖尿病に伴う高血糖や代謝異常は軽度であればほとんど自覚症状を生じません。したがって、重篤な慢性合併症の発症ではじめて糖尿病の存在が認識されることがあります。しかし、著しい高血糖では、口渇、多飲、多尿、体重減少などがみられ、さらに代謝異常が高度になると意識障害・昏睡などの急性合併症がみられます。

HbA1cとは、先行する約2ヶ月間の平均血糖値を反映し、長期の血糖コントロールの指標として最も重要な検査です。つまり、1~2ヶ月毎にHbA1cを測定することにより、血糖コントロール状況を評価することができます。HbA1cの基準値は4.3~5.8%です。

血糖コントロールの状況

HbA1cの値	評価
5.8%未満	優
5.8~6.5%	良
6.6~7.9%	可
8.0%以上	不可

血糖コントロール状況の評価は左表の通りです。

HbA1cは糖尿病と診断される検査項目の一つです。当院でも検査が出来るようになりました。詳しくは担当医までご相談下さい。



地域医療連携室の紹介

地域医療連携室は、副院長・看護部長のもと、看護師主任2名(病棟、透析室)、理学療法士(リハビリ室長)、ソーシャルワーカーで構成されています。さまざまな相談内容に対して、上記のメンバー、関係するスタッフと検討、必要な支援を行っていきます。

また、継続的に療養が可能となるよう他の医療機関、介護事業所や施設、公共機関との連携を行います。療養・医療費の相談に応じ、介護保険制度や福祉制度・医療費制度の紹介・説明も行っています。

病気や診療、ご入院、療養(看護、介護)に関するご不安・ご不明な点、疑問点など、お気軽にご相談ください。

たとえば…

- ・ 介護保険を利用したい
- ・ 退院後の自宅での生活が心配
- ・ 医療費について聞きたい
- ・ 身体障害者手帳について聞きたい
- ・ 病院、病気のことわからないことがあった
- ・ 治療やそれに伴う生活に不安がある

など

面談を通して、みなさまの心配事・不安への対策について一緒に考えていきます。

心配事・不安

家事、食事、排泄、入浴
住宅状況、通院、薬の管理
など

対応策

介護保険

ヘルパー、デイサービス
住宅改修、訪問看護…

介護保険や福祉制度を利用することで、解決できる部分、対応できる方法もあります。

ご本人の力(身体機能、意思、これまでの工夫、家族などの周囲の協力者…)が生活・療養の中で、最大限、発揮できるよう補足的に制度や機関との連携を行い、良い方向へ向かうようお手伝いいたします。

ご相談は電話連絡、各病院スタッフへの申し出、または地域医療連携室をお訪ねください。



患者さんの声

病と共に25年

南関町 大里 桂子

昨年7月、永らくお世話になってきた久留米の古賀病院より、ここ杉病院へ転院して治療することとなりました。スタッフの皆様には、お世話になっています。移ってきて半年になりますが、久留米まで通う思いをすれば、杉病院までは近いので、楽になりました。車、バス、電車の乗り換えもなく、マイカーで通院できるのです。

人工透析をはじめたのは、まだ私が37歳の時でした。一生続けなければならないのかと思うと居ても立ってもいられませんでした。

結婚して授かった第一子は三角(熊本県)で流産してしまいました。

翌年、主人が天草の湯島に転勤になり離島へ引っ越しました。第二子の妊娠5ヶ月頃、蛋白尿が出始めました。幸い、血圧も正常で、むくみもなく大牟田市立病院で出産しました。娘の子でしたが、お産は順調でした。

その後、南関に帰り、長男、次男と出産し、順調な日々が過ぎていきました。

ところが、末っ子が1年生になった年、風邪を引いてしまい、熱があり近くの病院へ行き注射をし、薬をもらい飲んだところ、尿が出なくなり、むくみ始めました。

しばらくはようすを見ていましたが、大牟田の産婦人科へ駆け込んだところ、そこから即刻、大牟田市立病院へ入院でした。しかし、まだ、透析治療は行われておらず、数日後に久留米の古賀病院へ入院して透析することになったのです。以来、毎週月・水・金曜日の3日は、久留米まで透析のために通院する暮らしが始まりました。それから、8年間の治療を続けてきました。

その後、家庭でできる治療方法があるとの耳寄りな情報を頂き、思い切って「腹膜透析」という治療をするために、カテーテルを埋め込む手術入院をしました。

この治療方法は、家に居ながらにしてできる透析のため、家族のためにも役立つことができましたが、11年間もの腹膜透析で、腹膜硬化症を起こし、「腸閉塞」になり、病院で意識不明になっていたそうです。ICU治療室で2週間も救命治療を受けたのです。急性脳梗塞や難聴などいくつかの合併症が残りました。自分を励ましながらか、「必ず立てる!もとのようになれる!」と、毎日毎日念じて、半年後に退院できました。

それから、通院。バス、電車に乗り換えるのに、よく歩き足を鍛えました。次第に足に力がついてきたのですが、左足は検査してもらうと、一部の血管が狭くなっているところがあるというので拡張手術をしてもらいました。

こうして、元気が戻ってきているのも、家族や友だちの温かい支えのおかげだと思い、感謝しています。今では、マイナスの気持ちを捨てて、プラス志向で行こうと自分に決めています。



職員旅行

in 北海道

栄養室
古田 睦

11月29、30日は社員旅行で北海道に行きました。最初に羊が丘に行き、羊の乳で作ったアイスを食べましたが、牛の方が濃厚で美味しかったです。夕食は札幌のサッポロビール園にてジンギスカンとお寿司を食べました。羊肉は臭みもなく、柔らかくてとても美味しかったです。そしてやはり本場のビールは美味しいらしく、皆さんの飲むペースは素晴らしかったです。夕食後は時計塔に登り、そこから見たホワイティイルミネーション中の大通公園はとても綺麗でした。帰りはその中を歩き、上から見るのと違った景色を楽しめました。

2日目は魚市場で佐藤水産「お勧め」の大きなタラバガニの足セットを買占め、おまけに石狩ラーメンまで頂きました。そして小樽に移動しオルゴール

館や小樽運河に行きました。お店はチョコやケーキなど甘いものが多く試食だけで満足でした。行きは怖かった飛行機も帰りは起きたら福岡空港に着いていました。とても充実した2日間でした。



去る平成21年11月23日、当院の職員旅行で宮崎への慰安旅行に参加する機会を得ました。

バスの中では、出発と同時にお酒を飲む人、眠る人、カラオケを歌う人などにぎやかな道中を楽しむことが出来ました。

特に思い出に残ったのは、綾の大つり橋での大自然に囲まれた素晴らしい景色と爽やかな空気といたいところですが、私はお酒を飲むことが大好きなので、やはりなんといっても酒泉の社が一番でした。さまざまな味の異なる焼酎、ワインを試飲することができ、至福の時をすごすことができました。

夜は宮崎観光ホテルに宿泊しみんなと大宴会でもりあがり、遅くまで語り合い友情を深め合えた夜でした。次の日はみんな前日の疲れかバスの中では爆睡でした。

短い時間ではありましたが、皆さんと友情が深まりより一層チームワークに磨きがかかったのではないかと私は思います。とても楽しく思い出に残る旅行でした。

職員旅行

in 宮崎

放射線室
徳永 智行

